教　師　ノ　ー　ト

週課	第三年　第一一課　第一週
単元	捕囚と帰還
テーマ	罪は人を不自由にする
タイトル	国外追放
テキスト	II 列王記 17:1-23、25:1-21、エレミヤ 21:1-10
参照箇所	II 歴代誌 36 章

暗唱聖句（教会で使用している聖書訳を記入して下さい）
ローマ 6:23

AG 日曜学校教案参照箇所

❑導入

「出エジプト記」は、エジプトから外国人のイスラエル人が追い出された時の出来事です。キミは叱られてお家を追い出されたり、部屋から追い出されたりしたことはない？もしそうなったらどんな気持ちになるかな～？北イスラエル王国も南ユダ王国も同じイスラエル人の国なんだけど、自分の住んでいる国から追い出されちゃうんだ！なんで～？

☞この『捕囚と帰還』の単元はカリキュラム上非常に短期間で膨大な内容に触れなければならない。もし状況が許すなら一つの課を 2 回か 3 回に分けて学んでも良いだろう。各教会の事情に合わせて柔軟にプログラムを工夫してもらいたい。

❑ポイント1　北イスラエル王国はアッシリヤに滅ぼされてしまいました(2列王記17:1-23)

北イスラエル王国の首都サマリヤでホセアが北イスラエルの王様になりました。北イスラエルの人々は何回王様が変わってもまことの神さまを礼拝することをせずいつも偶像を拝んでいました。イスラエルの人たちは神さまがモーセを通してエジプトの奴隷生活から救いだしてくださってから今まで必要なものはすべて与えてくださり、また敵から守ってくださったにもかかわらず、まことの神さまを知らない外国の人々が拝んでいた偶像を拝み仕えていたのです。

神さまはイスラエルの人々がこのようなまことの神さまを忘れ、偶像の神々を拝んでいる姿を見て何度も何度も預言者を通して悔い改めて神さまの元に戻ってくるように、そうでないと滅びてしまうと警告されました。けれども人々は預言者の言葉を聞こうとせず、バアル像やアシェラ像を作っては拝み、占いやまじないなど、自分たちがやりたいように、好きなことをして生活していました

ついに、神さまがしもべである預言者たちを通して警告されていたようにイスラエルが滅ぼされてしまう時がやってきました。アッシリヤがイスラエルに攻めてきたのです。アッシリヤの王様は北イスラエル王国の首都サマリヤを 3 年間包囲した後、ついにサマリヤを攻め取ってしまいました。イスラエルの人々はアッシリヤへと連れて行かれ、今まで住んでいた場所には誰も知らない他の国の人々が住んでしまいました。ついに北イスラエル王国は滅亡してしまったのです！

☞（6節）イスラエル人が捕らえ移された場所ハラフ（北部メソポタミヤ、カランの近くと言われる）、ハボル（ユーフラテス川北方の上流地域）、ゴザンの川（ユーフラテス川の一支流）、メディヤ（カスピ海南方とメソポタミヤ東方の地域）を聖書地図等で確認すると良い。

✎（14節）「うなじのこわい者」…こころをかたくなにする者の意

❑ポイント2　南ユダ王国にもバビロンが攻めてきました(2列王記25：1-4、エレミヤ21：1-10)

北イスラエル王国が滅びてから約 130 年たった頃、南ユダ王国にもバビロンの軍隊が攻めてきました。南ユダ王国の人々は王様によって神さまに立ち返ることもありました。しかし、やっぱり南ユダ王国の人々も最後は神さまを忘れて偶像礼拝をしてしまうのです。バビロンの軍隊はユダ王国を滅ぼすためにやってきたのです。多くの町や村が焼かれ、ついにバビロンの王ネブカデネザルにエルサレムの町は取り囲まれてしまいました。戦いで多くの人たちが殺され、食べ物はなくなっています。ユダの王ゼデキヤは青ざめた顔で預言者エレミヤに尋ねました「本当にエルサレムの町は滅ぼされるのか?」エレミヤは答えました「そうです。ユダの人たちは神さまの招きがあったにもかかわらず偶像から離れないで罪を犯し続けてきました。ですから神さまがこの国を滅ぼされるのです」ついに、エルサレムの石の城壁が崩されバビロンの兵隊が雪崩のように攻め込んできました。

☞(8,9 節)神さまはユダの人々が神のみ言葉に従いへりくだってバビロンに投降するものは生き、かたくなにエルサレムに留まろうとするものは死ぬと言われた。ここに神の憐れみと信仰が働く必要性を見る。

❑ポイント3　南ユダ王国はバビロンに滅ぼされてしまいました(2列王記25：5-21)

ゼデキヤ王はこっそりと逃げようとしましたがすぐに捕まってしまいました。そして息子たちは殺され、自分は目をくりぬかれてバビロンに奴隷となって連れていかれてしまいました。王宮も神さまを礼拝する神殿も壊され燃やされ、神殿の中にあった立派な礼拝の道具や宝物は全部バビロンに持っていかれました。大勢の人が滅ぼされ残ったのはわずかな人たちです。その残ったわずかな人々も遠いバビロンの国に連れて行かれることになりました。遠くの知らないバビロンの国でこれから奴隷として働かなければならないのです。ユダの人々の心は悲しみと不安でいっぱいでした。

❑結論　神さまに罪を犯して生きると私たちは不自由になります

神さまはずっとイスラエルの人たちに悔い改めてみ言葉に聞き従うようにと語り続けられました。神さまのみことばに従っていくことは不自由になることのように思うかもしれませんね。でも実はそうではないのです。神さまのみことばに従っていくことは、私達が交通ルールを守ることによって安心して道を歩くことができるように、自由と安心と喜びをもって生きる道なのです。反対に神さまを無視して、自分勝手に生きていくことは、交通ルールを無視して高速道路を歩くようなもので、いつも危険で不安と恐れで実は不自由な道なのです。

❑適用　(聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

神さまを無視して偶像礼拝の罪を犯し続けた結果、イスラエルの人たちは本当の神さまに戻れなくなっていってしまいました。そして、ついに国は滅び他の国に捕らえ移されてしまいました。実は神さまを無視して生きることはとても「不自由」なこと。きみは神さまに罪を犯しているために、苦しかったり、不安だったり、やめられなくなったりしていることはないかな？キミの心や行いが「不自由」になっていることはない?

祈り「天のお父さま、〇〇のことが神さまよりも大事になっていました。ごめんなさい。これからは神さまを第一にできるように、どうぞ助けてください。イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン。」